

石川県 加賀地区元気な地域づくり計画の成果事例

農村の振興

地域づくりの目標

情報の利活用による魅力ある農山村づくり

地域情報受信可能率(CATV加入率)

整備対象エリア 0.0%(H18) 28.0%(H21)28%増

CATVインターネットの加入率

整備対象エリア 0.0%(H18) 8.0%(H21)8%増

計画に至る背景

加賀市の情報化の整備

平成17年に合併した加賀市には、加賀ケーブルテレビ、加賀テレビの2つのケーブルテレビ会社が存在し、これまで国、県、市町の補助を受け、サービスエリア拡張、幹線の光化を整備し、議会中継や行政広報、ケーブルインターネットサービスを実施してきた。

ケーブルテレビ放送におけるエリアカバー率は、95%を上回るが人口集中地区の市街地が優先され、農村部への普及整備が遅れている。そのため、周辺農村部での情報通信基盤の整備が課題であった。



石川県加賀市の位置

目標達成の要因

市民ニーズに添った情報の提供

営農に直接関わってくる潟周辺の浸水被害や、地震等の災害情報や市議会定例会の生中継の他、市民生活に密着した情報提供等の取組みを進めた結果、加入者の増加に大きく寄与したと考える。

代表的成果

地域情報受信可能率(CATV加入率)

28%増の目標に対して、29.3%の増加、達成率105%

0.0%(H18) 29.3%(H21)

CATVインターネットの加入率

8%増の目標に対して、16.9%の増加 達成率211%

0.0%(H18) 16.9%(H21)

取組活動の概要

迅速な災害防止対応

農業施設等の監視システム
大雨のたびに、潟周辺の住宅や大豆のほ場が浸水被害を受けていたが、リアルタイムで正確な情報を提供するシステムを構築し、迅速な災害防止対応が可能となった。



潟の水位が確認できる監視カメラ画像

加賀市のホームページから潟の水位がいつでも確認できるTV画面:正面の針は、水位計

今後の課題・展望

今後は、本事業により整備された情報通信基盤を有効活用し、自然あふれる農村風景等の地域資源・観光情報等を発信し、都市と農村の交流を活性化することにより、地域の農林水産業の振興を図りたい。



石川県 能登地区元気な地域づくり計画の成果事例

グリーン・ツーリズム
都市農業の振興

地域づくりの目標

奥能登の自然、文化、人々との交流を楽しむ里づくり

宿泊者数の増加 407人(H17)→924人(H21)127%増

計画に至る背景

グリーン・ツーリズム促進と情報基盤の充実

能登地区は、豊かな自然景観と古い土蔵等が存在する良好な景観を有している。しかし、若年層の流出による人口減と高齢化が進み、地域全体の弱体化が深刻な問題となっている。そこで交流人口の増加による地域活性化を図るためグリーン・ツーリズムを推進する。



石川県能登町位置

目標達成の要因

簡易宿泊型交流施設こぶしの整備により地域宿泊者数の増加が見られ、グリーン・ツーリズムの拠点施設として効果が現れてきており、更なる利用向上が見込まれている。これにより春蘭の里を中核地域としたプログラムを推進し、都市交流人口の増加に寄与し、更なる地域活性化が望まれている。また、農地基盤整備の着手や情報ネットワーク整備を行い農村生活環境の向上も目標達成の要因となった。

代表的成果

廃校となった小学校舎を改良し、簡易宿泊型交流施設(こぶし)として整備した結果、宿泊者数が大幅に増加した。127%増の目標に対して、451%の増加、達成率355%

407人(H17)→2,243人(H21)

取組活動の概要

住民参加の春蘭の里づくりの推進

春蘭の里の小川でヤマメが泳ぐ能登町宮地の山あいであり、宿泊体験の交流拠点施設として30軒の農家民宿が点在している。川魚や山菜など地元の食材を使った料理を提供し、町外からの修学旅行の受け入れなどにも行い、地域活性化の推進を図っている。



体験学習の様子

今後の課題・展望

グリーン・ツーリズム事業の推進による効果が現れているが、更なる営農集落の活性化を形成するためには、地域活動を維持していく必要がある。そのための推進体制の維持が課題である。



新潟県 ^{みなみうおぬま}南魚沼市地区 (浦佐第2地区) 地区元気な地域づくり計画の成果事例

地域づくりの目標

- 目標1: 生産基盤の充実により生産性の向上を図り、「コシヒカリ発祥の地」としてより安全・安心な食料生産をめざす。
- 目標2: 担い手の育成・確保により、認定農業者の拡大・強化を図る。

計画に至る背景

安全・安心な食料生産をめざして

本地区は、新潟県の南部に位置し、豊富な水資源を利用し、地域の特産品である「魚沼産コシヒカリ」の生産を主体とした農業経営が展開されている。

しかしながら、土質条件の影響により耕土厚の不足や、水田からの漏水が著しく、水管理等の維持管理に苦慮している。

よって、ほ場の土質改良を目的とした客土工を実施することにより、生産性の向上を図り、安全・安心な食料生産をめざすこととした。



新潟県南魚沼市位置

取組活動の概要

客土工の実施による生産基盤の保全

現況ほ場土質状況



平成19年度から平成21年度まで、ほ場の客土工を実施した。

さらには、ほ場畦畔に植栽を行い、農業者と地域住民が一体となって、農村景観保全活動への取り組みを行った。

レキ混じり土の露出

代表的成果

農業生産基盤の整備

必須目標: 農業生産基盤の整備・保全により機能が確保された農地の増加面積

10.0ha (H21)

選択目標: 自然環境の保全・再生等に向けた取組みの増加

1ヵ所 (H21)

魅力ある農業の定住に向けた認定農業者の増加

232人 (H17) → 364人 (H21)



地域住民等による植栽活動

事業実施効果

客土工の実施により、農業生産基盤の保全が図られ、機能が確保された農地面積の増加につながった。

また、必要な耕土厚が確保されたことにより、ほ場の保水性が改良され、水稻の安定生産が可能となった。

今後の課題・展望

近年、本地区では転作田を活用した施設園芸の導入や、都市住民及び消費者との交流等、地域の活性化に向けた取組みを実施している。

一方で、農業従事者の高齢化等に伴い、将来的に地域の担い手不足が懸念されることから、若者にも魅力ある「農業・農村づくり」を推進し、引き続き「担い手の育成・確保」に努めていきたい。



福井県 ^{にゅう}丹生地区元気な地域づくり計画の成果事例

中山間地域等の振興

地域づくりのテーマ

地域農産物の直売による生産者の顔が見える農業の推進と、農家と地域住民がふれあうことのできる魅力ある地域づくり

数値目標: 地域農産物の販売額の増加

43,804千円 (H17現在値) → 205,000千円 (H21目標値)

地域の課題

丹生地区は、福井市の清水、越廼地区と越前町からなり、大部分が中山間地域で平坦地が少ないことから、農林業では収益性の停滞、担い手の減少、耕作放棄地の拡大等の課題を抱えていた。生産者が将来に向け希望を持って意欲的に取り組める農業を確立し、地区外への人口流出を抑制するための施策が早急に必要であった。



課題解決のための取組

地域の農林漁家が生産に意欲的に取り組むためには、農家所得の向上につながる施策が必要であり、まず、「売る場」の創出として、農林水産物直売施設（1棟平屋建、844.79㎡）を整備した。整備に当たっては、交流人口の増加、集客の相乗効果を重視し、大型商業施設や高齢者福祉センターなどの公共施設の隣接地を選択した。登録出荷者により「丹生膳野菜」出荷者の会が設立され、地域農業に関する情報の提供や、直売施設の円滑な運営に協力している。



農林水産物直売施設「丹生膳野菜」の整備

代表的成果

販売額205,000千円の目標値に対して、442,653千円を達成

取組の成果とその要因

平成21年度には、目標値の2倍を超える売上を達成するなど、当初の計画を上回る成果をあげてきている。その大きな要因としては、開店時より近隣市町への周知のため、各種イベントを実施しながら、消費者との交流を図ってきたことがあげられる。H21年2月には、隣接する「れすとらん旬菜」がオープンし、集客効果が更に向上している。施設整備の取組により、雇用の拡大や農家所得の増加に加え、消費者との交流が日常的に行われることが、高齢化が進む地域の農家に元気をもたらしている。



今後の課題・展望

更なる農産物販売額の増加と、出荷農家の育成が課題。特に冬期間の農産物の出荷が増加するようにハウス等の有効利用を勧めていくために、農家の戸別推進を行いたい。

